



## 大阪部会(第7回)

日 時: 2008年5月17日(土)18:00~20:00

場 所: 同志社大学 大阪サテライト

### 【内容要旨】

- (1) 第7回目の部会は14名の参加者で開催された。まず初めに、経済教育ネットワークの篠原総一代表者から、大阪と東京での「高校教員のための経済学研修」について、予定されている日時、会場および講師についての報告があった。これに関連して、研修で取り上げたいピックを高校の先生がたに問い合せて欲しい旨の要望があった。同時に、研修への参加を促していただくお願いもあった。さらに、7月5日の午後、日大で開催される経済教育シンポジウムと、9月6日に同志社大学で開催予定の年次大会についての報告があった。特に、年次大会のプログラムについての意見やアドバイスが求められた。
- (2) 続いて、金田修治氏(大阪府立三島高校)より、今年3月に実施された財務大臣会議高校生サミットの報告がなされた。このサミットに参加した生徒のモチベーションが非常に高かったので、全国規模でこのような会議を開催できないかどうかの意見交換があった。
- (3) 李洪俊氏(大阪市立加美中学校)が公民の授業で使用されているプリント例についての紹介があった。教科書に準じたプリントを使用する狙いは、生徒に考える機会を与えたり、話し合う教材作りを進めるためである。また、いろいろな考えがあることを生徒に理解させるためには、個人学習では授業がはかどらないので、班学習にして行なわれている。一方、教師がプリントを点検することで、授業の振り返りとして生徒の理解度を知ることができる。ただ、時間的な制約上、生徒一人一人へのきめ細かな対応ができないのが難点である。
- (4) 最後に、山本雅康氏(奈良学園中・高等学校)が駿台予備校主催の「2008年春季教育研究セミナー」に参加され、その報告がなされた。セミナーでは、ケインズ理論についての解説がなされたが、経済学の理論は大学受験に出題されないのが現状である。それに関連して、リカードの比較生産費説についての解説に不明な点があるという指摘が、経済教育ネットワークに寄せられた。それを話題にして、リカードの比較生産費説をどこまで教える(特化による全体の生産量の増加を理解させる、あるいは、貿易による二国の経済厚生改善まで理解させる)かで、教科書の記述が適切か不適切かが違ってくるという意見が出てきた。

(文責:西村理)